

講義、実習の概要

講座名	放射線防護コース
題目	外部被ばくモニタリング ■講義 □実習
所要時間	1.2 時間
実施場所	研修講義棟 ■講義室 □非管理区域 □第1種管理区域 □第2種管理区域
本講義のねらい	被ばく線量限度、外部被ばくの防護、外部被ばくモニタリングの方法、外部被ばく線量の算定等について習得する。
概要	以下の内容について概説する。 1) 被ばく線量限度 実効線量限度、等価線量限度、緊急作業時の線量限度の値 2) 外部被ばくの防護 距離、時間、遮蔽の放射線防護の原則 3) 外部被ばくモニタリングの方法 作業場所の線量率分布から被ばく線量の推定、個人線量計着用時被ばく線量の測定 4) 外部被ばく線量の算定 実効線量の算定、等価線量の算定
キーワード	実効線量限度、等価線量限度、緊急作業時の線量限度、時間、距離、遮蔽、電離箱式サーベイメータ、GM管式サーベイメータ、シンチレーション式サーベイメータ、テレテクター、レムカウンタ、OSL線量計、熱ルミネッセンス線量計 (TLD)、電子個人線量計 (EPD)、ガラス線量計、実効線量、等価線量、引き渡し機関
使用する RI、危険物、重量物等	なし

講義、実習の概要

講座名	放射線防護コース
題目	内部被ばくモニタリング
	■講義 □実習
所要時間	1.2 時間
実施場所	研修講義棟
	■講義室 □非管理区域 □第1種管理区域 □第2種管理区域
本講義のねらい	内部被ばくモニタリング、放射性物質の摂取経路及び内部被ばく線量評価方法等について習得する。
概要	<p>以下の内容について概説する。</p> <p>1) 内部被ばくモニタリング  日常モニタリング、作業モニタリング、特殊モニタリング、確認モニタリングの方法</p> <p>2) 放射性物質の摂取経路  吸入摂取、経口摂取、経皮吸収、傷口吸収からの摂取</p> <p>3) 内部被ばく評価方法  体外計測法、バイオアッセイ法等の摂取量評価</p> <p>4) 内部被ばく線量の評価  預託実効線量の評価</p>
キーワード	日常モニタリング、作業モニタリング、特殊モニタリング、確認モニタリング、吸入摂取、経口摂取、経皮吸収、傷口吸収、体外計測法、全身計測、胸部計測、甲状腺計測、バイオアッセイ法、共沈法、イオン交換法、溶媒抽出法、蒸留法、預託実効線量、実効線量係数、摂取量
使用するRI、危険物、重量物等	なし

講義、実習の概要

講座名	放射線防護コース
題目	表面汚染モニタリング ■講義 □実習
所要時間	1.2 時間
実施場所	研修講義棟 ■講義室 □非管理区域 □第1種管理区域 □第2種管理区域
本講義のねらい	表面密度モニタリングの目的、方式及び管理基準値、測定方法について学び、表面密度モニタリングについて理解する。
概要	以下の内容について概説する。 1) 表面汚染モニタリングの目的 2) 表面汚染モニタリングの方式 3) 表面汚染の管理基準とその誘導 4) 表面汚染の測定法
キーワード	日常モニタリング、作業モニタリング、特殊モニタリング、管理基準値、固着性汚染、遊離性汚染、直接測定法、間接測定法
使用する RI、危険物、重量物等	なし

講義、実習の概要

講座名	放射線防護コース
題目	空気汚染モニタリング ■講義 □実習
所要時間	1.2 時間
実施場所	研修講義棟 ■講義室 □非管理区域 □第1種管理区域 □第2種管理区域
本講義のねらい	放射線モニタリングのうち、空気汚染モニタリングについて学び、目的、重要性、モニタリングの方法、モニタリング結果の評価方法について理解する。
概要	以下の内容について概説する。 1) 試料採取方法 2) 放射性物質濃度の求め方 3) 放射性物質の体内摂取量の推定 4) 内部被ばく線量の推定
キーワード	放射線モニタリング、試料採取、粒子状放射性物質、気体状放射性物質、体内摂取量、内部被ばく線量
使用する RI、危険物、重量物等	なし